

「新型コロナウイルス感染拡大防止」に対応した 花火大会や花火イベントの開催のための施策

2020年7月15日

一般社団法人日本煙火芸術協会

一般社団法人日本花火推進協力会

はじめに

400年の歴史を紡ぐ日本の花火には「平和」「文化」「芸術」「平等」「経済」などの多くの要素が共生しています。現在、日本国内での花火大会は年間約1,000カ所で開催され、観客は7,000万人以上と言われ、長年日本で愛され動員力のあるイベントとなっています。

ただ、2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、花火のハイシーズンである春から秋にかけての大会の殆どが中止若しくは延期となりました。非常に深刻な状況にあり、来年も今までどおりの花火大会を実施できるかどうか危機感をもっています。このままでは、これまで築き上げてきた世界に誇る日本の花火そのものの存続が危ぶまれます。

本資料は、地域経済、観光振興に貢献するだけでなく、人々に夢と希望を与える日本の花火をこれからも守っていきたい、そして、安心・安全な花火大会の実施に向けて、花火事業者として少しでも貢献したい、そのためにこれまで現場で培ってきた経験も役立てたい、そうした思いで知恵を絞って本施策をとりまとめたものです。

花火大会の実施に際しては、都道府県や各自治体の方針に従うことが大前提です。また、開催が決定された場合にあっても、その運営に関しては主催者による方針・判断が優先されるものですが、安心・安全な花火大会開催のために本資料が少しでも後押しにつながれば幸いです。

なお、新型コロナウイルス感染症への対策については、必ずしも十分な科学的知見が蓄積されている訳ではないため、本資料は、現段階で得られている知見等に基づき作成しています。本施策は、今後も、知見の蓄積や各地域の感染状況などを踏まえ、現場で試行錯誤しながら、随時、見直してまいります。

煙火事業者が実施すべき対策について

ここでは、現場で花火の打揚を担う我々煙火事業者が、安心・安全な花火大会を実施するにあたって、感染予防対策として実施すべき基本的事項を整理しました。

(1) 日常の感染対策

大会当日の作業に参加するにあたって、日常の感染予防対策をルール化すると共に職場風土を醸成する。

- 健康管理に万全を期すため、毎日の「体温測定」と「体調記録（自己診断で可）」を「記録管理」する。
- 特に、花火大会当日に現場に従事する者が2週間以上前に決まっている場合は、健康管理及び感染予防対策を徹底する。（個人情報として、厳格に管理することを前提に各組織内のコンセンサスを得る。）
- 現場に従事する予定者のなかに発熱等の風邪症状の自覚を感じられた者は、直ちに休暇取得を申し出る。
- オフィス・製造事業所においては、経団連のガイドライン（※）を参照し、必要な感染予防対策を実施する。

※（一社）日本経済団体連合会「オフィスにおける新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」、「製造事業所における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」、

(2) 大会当日の感染対策

現場で作業に従事するにあたっては、基本的な感染予防対策を徹底するとともに、主催者や関係事業者と十分に意志疎通を図り、現場の状況に応じた必要な予防策を躊躇なく実施する。

- 手洗い、うがいの励行
一定時間内や作業の合間に必要に応じて励行するよう習慣化する。その際、可能な限り手指消毒についても励行する。
- マスク着用、咳エチケットの習慣化
- トイレ、手洗い場所
トイレ内に手指消毒液を常備し、座面は使用者が都度消毒を実施する。トイレの蓋を閉めて汚物を流す。
「ペーパータオル」や「個人用タオル」を使用する。ハンドドライヤーがある場合は使用中止する。
- 身体的距離の確保
従事者同士でも「身体的距離の確保」（※）を可能な限り実施する。（※できるだけ2mを目安に（最低1m）確保するよう努める）

- 作業着
従事者単位でこまめに洗濯を実施し、現場期間内で連日同じ作業着は着用しないのが望ましい。ジャンパー等の洗濯が難しいものは各事業者単位で消毒液による消毒対策を行うなど工夫する。
- 共有資材等
消耗資材等については可能な限り各従事者単位で管理し、その共有を極力避ける。特に共有する機会が多い現場資材、用品については、各自の使用後に消毒を実施する。
- 休憩、飲食
休憩時間の取得を工夫し、従事者間で密接にならないよう留意する。
対面にならないようにし、会話も控えること。
特に、休憩時は気が緩むため注意が必要である。
- 待機時
打揚現場での事前作業終了後、打揚本番までの待機時、特に密接になりうる環境においては、対策を十分に行う。レイアウトを工夫し、換気の実施や動作に留意する等の対策を各自行う。特に海上での打ちあげで船上コンテナ等の密閉した空間で作業する場合など、換気を徹底する。

(3) 大会終了後の感染対策

- 打揚現場の撤収作業時は、手袋の着用を徹底するとともに、マスクを着用する。
- 会場内に落ちているゴミ、その他拾得物等を拾う際は、手袋をしたうえでトングを利用する等可能な限りの対策を講じる。
- ゴミの廃棄時はビニール袋に入れて密閉して縛る。
- マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する。

(参考)

大会の運営や花火の観覧において留意する点について

ここでは、大会の運営を行う主催者や、飲食提供などを行う関連事業者、花火を観覧にきてくださる来場者・地域住民など、関係する皆様それぞれが感染対策を行い、協力して安心・安全な花火大会を実施することができるよう、花火事業者として少しでも貢献したいと思い、取り組み例としてとりまとめました。

開催地域の状況や開催規模など大会毎に状況は異なり、実施にあたっては、都道府県や各自治体の方針、主催者による判断などが優先されるものですが、安心・安全な花火大会開催のため少しでも後押しにつながれば幸いです。

○運営者（主催者）

(1) 開催前の対応（取り組み例）

- ・必要な対策等について、行政当局等と協議するとともに、地域住民等に対して説明を行う。

(2) 大会当日の対応（取り組み例）

- 受付
 - ・身体的距離を確保するよう工夫する。
 - ・アクリル板、ビニールカーテンなどで遮蔽する。
 - ・手指消毒剤を設置する。
 - ・受付を行うスタッフはマスクを着用する。
 - ・来場者に対して検温を実施し、発熱や咳・咽頭痛などの症状がある場合は入場しないよう呼び掛ける。
 - ・来場者の入場・退場時間を分けし、混雑を避ける。（チケット上で事前告知、当日アナウンスにより入退場を円滑に行う。）
- 観覧席
 - ・「身体的距離の確保」を考慮したレイアウトとする。
 - ・混雑を避けるため、入退場時間制限や時差入退場を行う。
- トイレ、手洗い場所
 - ・不特定多数が使用する場所であり、十分な消毒を行う。
 - ・手洗い場には石鹼、消毒液、ペーパータオル等を用意する。
 - ・トイレは蓋を閉めて汚物を流すよう促す。
 - ・仮設トイレ等で密閉空間となりうる場合は、可能な限り換気を行う。

(3) 大会開催中の対応（取り組み例）

- 観覧者への対応
 - ・有料観客席だけでなく、無料観覧エリアにおける観客者に対しても、マスク着用・咳

エチケット・3つの密の回避等についてご協力いただくよう呼びかけを行う。

(4) 大会終了後の対応（取り組み例）

- 来場者の退場
混雑を避けるために、エリア毎に時間を分けた退場を行うなど工夫する。
- 会場片付け
 - ・手袋の着用を徹底するとともに、マスクを着用する。
 - ・会場内に落ちているゴミ、その他拾得物等を拾う際は、手袋の着用やトングを利用する。
 - ・ゴミの廃棄時はビニール袋に入れて密閉して縛る。
 - ・マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する。

○飲食提供事業者（取り組み例）

- 来場者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛ける。
- 飲食物を提供する場所は、アクリル板、ビニールカーテンなどで遮蔽する。
- 屋台やキッチンカー等の受付に手指消毒液を設置する。
- 提供方法の工夫（大皿からの取り分けを避け、一人分を小皿に取り分けるなど）
- 飲食物を取り扱うスタッフはマスク着用する。
- 従業員同士、来場者との間に身体的距離を確保する。

○来場者、地域住民

(1) 来場者（取り組み例）

- 体調が優れない場合、感染が疑われる症状、感染者との濃厚接触等がある場合は、来場をお控えいただく。
- マスクの着用、咳エチケット、距離の確保、3つの密の回避等にご協力いただく。

(2) 地域住民（取り組み例）

- 観覧エリア外で鑑賞する場合や、清掃や警備等にボランティアとして参加する場合、三つの密の回避・身体的距離の確保・手洗い・マスクの着用・手指消毒液の使用など、感染予防対策にご協力いただく。